

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 1272100502 | | |
| 法人名 | 株式会社ヘルスケアナラシノ | | |
| 事業所名 | グループホーム津田沼 | | |
| 所在地 | 千葉県習志野市藤崎4-10-8 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月1日 | 評価結果市町村受理日 | 平成27年6月5日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所 |
| 所在地 | 千葉県千葉市稲毛区園生1107-7 |
| 訪問調査日 | 平成27年3月18日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は緑豊かで閑静な住宅街にあり、近隣には小学校や幼稚園、公園などがあり入居者の散歩の際には、花々や木々を観ながら季節を感じ、近隣の方々との挨拶を交わしながら散歩を楽しんでいます。地域行事にも、回覧版を通して情報を頂き参加をさせて頂くこともあり、地域とのふれあいも大切にしています。事業所の庭や畑には季節の花々が咲いていたり、畑には野菜や果物を植えていつでも自然に触れ合えるような環境になっています。また職員は常に、事業所の理念でもある、(お元気で 明るく 心豊かに 過ごしましょう)に基づき、入居者の方々の笑顔を絶やさない様に、安心して、心地よく過ごせるような環境であるように支援しております。又、日常生活では、入居者の方々の出来る事を見出し、実行につなげられる様に自立支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは地域に開かれた、公正、公平、透明性のある事業運営に取り組んでいる。同じ敷地内には法人の5つの事業所が併設されていることで、地域の情報が集約され情報拠点として機能している。管理者の意思決定の速さと利用者本位への思いによって、利用者一人ひとりが自分に合った生活を送っていることが伺える。認知症の専門性を高めるなど、職員の育成にも意欲的に取り組み、サービスの質の向上を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「お元気で明るく楽しく心豊かに過ごしましょ | 管理者は「お元気で明るく楽しく心豊かに過 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事参加を心掛け、地域の方との触れ合いの中で安心して暮らせる地域と感じてられるように地域交流を図っている。 | 法人5事業所が同じビルの中にもあり、地域に密着した事業展開を図っている。地域行事への参加、散歩時の挨拶や回覧板の受け渡しなど、地域で生活していることを自然に実感できる生活になるよう努めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所で行うイベントへのお誘いや、学生の職場体験、ボランティアなどを通して、認知症の人の理解や支援方法などを広げている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に一回運営推進会議を開催し、ホームの状況やサービスの取り組みなどについて報告している。出席された方々からは幅広くサービスについてのアドバイスを頂き、運営に活かす様にしている。 | 2か月に1回開催しており、地域包括支援センター、民生委員、町会、介護相談員、家族代表などが参加しており、「スピーチロック(言葉による拘束)」「コミュニケーション」などについて活発な意見交換がされており、サービスの向上につなげていることが伺える。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議に地域包括支援センターの方に出席して頂き、会議の議事録を市の高齢者支援課に提出している。また定期的に市の介護相談員の方に来所して頂いたり、市の介護サービス向上連絡会への出席をしている。 | 市が運営する「介護サービス向上連絡会」に参加しており、地域包括支援センターとも情報交換をしている。また利用者の声を聞くため、市の介護相談員を受け入れている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 外部の研修などに積極的に参加を促して、職員が身体拘束について正しい理解ができるようにしている。またホームの出入口は、安全のため1ヶ所のみ施錠をしているが、職員は常時鍵を携帯しておりすぐに出られる様している。 | 2か月ごとのホーム会議、3か月ごとの社内研修、6か月ごとのケース会議などで身体拘束について確認し、拘束をしないケアに努めている。また、言葉による拘束についても周知徹底している。 | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 外部研修や内部研修を通して虐待防止について学ぶ機会を設けて、職員全員で正しい対応が出来るように防止に努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部や社内での研修を通して学習する機会が設けられている。又、グループ内でも勉強会を行い、学ぶ機会が持っており権利擁護を意識した支援を行っている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関する説明は、利用者やご家族が十分に理解・納得して不安や疑問が無くなるまで説明をするようにしている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 日常的にご家族からは話を伺うような体制をとっている。また6ヶ月毎に家族会を開催し、家族からサービスに対する意見などを聞く機会を設けている。 | 家族会は6か月ごとに開催しており、率直な意見が出ている。家族来訪時にも話を聞くようにしている。また、運営推進会議にも家族の代表が出席して意見を伝えており、ホームは運営に反映するようにしている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員が自由に発言できる環境を心掛け、職員の意見を反映しながら、ミーティングでの話し合いも含めより良いケアが提供できる様に努めている。 | 管理者は職員が気軽に意見や提案が出せる環境になるよう気を配っている。毎月の職員会議や日々の申し送りなどの定例的な場の他に随時に職員と直接会話をし、意見や提案を事業運営に反映するよう努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 現場の状況把握に努めるようにしており、職員が生き生きと働く事が出来るように職場環境や条件の整備に努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的に法人全体で研修の機会を設けている。新人職員はスキルを段階的に上げていけるようにマニュアルを作成している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市の向上連絡会等で出席している同業者と意見交換をして交流を図る様にしている。その際、他事業所で実施しているサービスなどについてよいと思われるものは参考にすようにしている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 相談から入所に至るまで本人の意向や不安要因を把握して、傾聴や寄り添いながら、安心感を持って生活が送れる様に支援している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 随時、ご家族からの意見や要望・相談を受け入れ、不安の解消や軽減を図りながら、よりよい信頼関係が築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人とご家族の話を傾聴して正しくニーズを把握するように心掛けている。場合によっては他のサービスの利用に繋げていくようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人を支援される一方の立場に置かず、自立支援を心掛け、その人らしく過ごせるように援助を行い、一緒に楽しく過ごす時間が多く持てるように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時での家族への説明や、毎月の便りで日常生活状況の把握をして頂けるように努め、職員では成し遂げられない事は家族に協力を得て、家族との絆が深められる様に関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 訪問時間の制限は付けずにいつでも居心地良く面会できるような環境を図っている。また、散歩などの際に馴染みの場所へ立ち寄事ができるように配慮している。 | 利用者にとって一番の馴染みの人とは「家族」と考えており、訪問時間の制限は付けずにいつでも家族などが来訪可能にしている。利用者に馴染みのある場所には、個別に訪れるなどの支援をしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者一人ひとりの気持ちを尊重しながら、入居者の皆様が孤立することなく、適度に関係を持つことができるようにレクリエーションやお手伝い等への参加を促す支援をしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービスの利用が終了した後も、関係を断ち切ってしまうのではなく、ご本人やご家族から相談があった際には、親身になって対応する様にしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いを傾聴やコミュニケーションを図り、又困難な場合は職員が感じ取れた事など総合して検討し本人の希望や意向の把握に努めている。 | 職員全員が2ユニット両方の夜勤を務めており、ホームの利用者全員と関わりを持つようにしている。職員が把握した利用者の思いや意向は、家族にも相談しながら本人本位の支援につなげるようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりの生活歴や生活環境やサービス利用の経過などを重視し、できるだけ把握するように心掛けて適切な支援を受ける事ができるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 日常生活の中でコミュニケーションを図り、一人一人の状況の把握に努め、自立支援を心掛け有する能力が活かせるよう支援を行っている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当会議や介護ミーティングの中で課題について検討する機会を設け、モニタリングにて現状の把握を行い職員全体で意見やアイデアを出し、計画票に反映できるように努めている。 | より良いサービスが提供できるように利用者の課題について担当者会議や介護ミーティングで話し合い、経過を観察し、支援経過におとしている。本人・家族・関係者と3か月に一度モニタリングを行い、見直しをしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の入居者の様子を個別記録にまとめており、職員間で情報共有や適宜見直しを行いながら、日常の広い場面で活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 本人や家族の状況などに変化が生じて、新たなニーズが生まれた場合には、支援やサービスの提供には可能な限り柔軟且つ多機能に対応するようにしている。 | | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域住民との関わりが持てる様に社会資源への参加を通して地域の方々の協力を得ながら地域で安心して豊かに暮らす事が出来るように支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にかかりつけ医を確認し、受診が必要な場合には速やかに対応できるように、普段から適宜連携をとりながら、納得のいく医療や助言を受けられるように支援している。 | 通院は家族に対応を依頼しているが、利用者の状態や薬などについてはホームと情報共有して、適切な健康管理ができるようにしている。また、訪問看護や訪問歯科とも連携している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職と看護師は、職場内で日常的に連絡・相談が取れるような体制を整えており、入居者の異常などにも迅速に対応ができ、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 普段から入居者一人ひとりの介護サマリーを作成し、入院時にはすぐに医療機関に情報提供をできるようにしている。また、入院後も早期退院できるように適宜情報提供を行うなどの関係作りを行っている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時には本人・家族に重度化や終末期の対応について説明をしている。又、必要な時は、再度の話し合いを行いを持ち、意向を確認の上、医師の助言を得ながら職員全員で共有したチームケアを行っている。 | 入所時に本人や家族に重度化や終末期の対応について説明し、同意を得ている。医師・家族・職員が連携し、本人を尊重した終末期を迎えられるように何度も話し合いを重ね、昨年は、ホームで一名の看取りを行った。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 利用者の急変・事故時に備えて、救急車の要請や緊急時の関係者への連絡の方法についてマニュアルを作成し、看護師の監督のもと応急処置や初期対応の訓練を行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回、法人全体で防災訓練を行い、さらに夜間帯の職員体制を想定した防災訓練を行っている。運営推進会議でも地域の方々に災害時の避難の協力などをお願いしている。 | 法人全体で、夜間想定訓練も含め年2回実施した。緊急連絡網を整備し、缶詰・水等も備蓄するとともに、地域住民には災害時の協力を依頼している。また、家族の意見によりリビングのテレビは固定した。 | 災害時に地域住民に何を協力依頼するのか、具体的な支援体制の整備が望まれる。また、地震対策として利用者の居室の家具の固定についても検討が期待される。 |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇を心掛け、入居者に声掛けをする際には、それぞれの個性に合わせて、自尊心やプライバシーに配慮をするようにしている。 | 利用者の尊厳を守るため、権利擁護についての外部研修を受講し、ホーム内研修でも確認している。職員の支援で不適切な場面が見られたときは、リーダーや管理者がその都度注意している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 日常の関わりを多く持つ事で信頼関係を作り、本人がご自分の思いや希望を表したり、自己決定ができる環境作りに努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 1日の生活のベースとなるスケジュールはあるが、入居者一人ひとりのペースを優先し、それぞれのペースに合った過ごし方ができるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人の意向を伺いつつ、季節に合った服装や清潔感がある身だしなみで過ごせるように支援している。また、月に1回訪問理容がある。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 嚥下機能を保つ為、食前には必ず口腔体操を行っている。また、献立には入居者の嗜好を取り入れ食事が楽しみに感じられるように支援して、かたづけ等も利用者と一緒にこないながらコミュニケーションを図っている。 | 盛り付けの器は季節感を大切しており、彩りにも配慮して、食事が見た目にも楽しめるよう工夫している。職員の声掛けで、利用者は後片づけなどを一緒に行っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事・水分摂取量は介護記録と別にチェックをしており、一人ひとりの状態に合わせて食事・水分の摂取量を調整し、適切な食事量・水分量の摂取ができるようにしている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 入居者全員が、食事とおやつの後には必ず職員が声掛け・見守りしながら口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 定時にトイレ誘導を行い、一人ひとりの排泄のパターンを把握するように努めて、可能な限りトイレで排泄が出来るように支援をしている。 | 排泄チェック表によりパターンや習慣を把握し、トイレでの排泄ができるように支援をしている。病院から入居したオムツ使用の利用者が、職員全員で支援した結果、リハビリパンツ、トイレでの排泄につながった事例もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェック表を用いて排便の把握をしながら、食事や水分、服薬にて調整しながら個々に応じた予防に取り組んでいる。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入居者の要望に応じて安全に気持ち良く入浴出来るように支援している。 | 利用者の意向に沿った入浴を支援をしている。入浴に抵抗感のある利用者には、無理強いせずに清拭・足浴等で対応し、また家族の協力を得る時もある。異性職員介助時は、利用者の心情に配慮し、必ず本人の意向を確認した上で支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりがそれぞれのペースで休息したいときはできるようにしている。また、適切な生活のリズムが整うように日中の活動支援を行い気落ち良く睡眠が取れるように支援をしている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬については入居者とご家族に適宜説明をしており、不安無く内服して頂けるようにしている。また、確実な服薬の支援を行い内服後の病状の変化にも留意している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの楽しみ事や得意な事を把握し、気分転換が図れる機会を設けて、楽しく、いきいきと過ごせるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | ご近所の馴染みの場所などは散歩などの際に立ち寄るようにしている。外食や買い物等の戸外レクの機会を設けている。施設対応が困難な時は家族に協力を得ている。 | 日光浴は「生きる源」と考え、1日1回外気に触れることができるよう外出支援を重視しており、車いすの利用者も散歩に出ている。外食にも定期的に出かけ、利用者の楽しみとなっている。利用者の希望する墓参り等は、家族の協力を得ながら実現できるようにしている。 | |

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族と相談し、本人が金銭の管理をする事ができれば、ある程度の現金を持って管理して頂くようにしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人の希望に応じて電話をかかけたり、手紙を書いて出す事をお手伝いしたるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共有の空間は、季節感を取り入れ入居者が過ごしやすいように、清潔を心掛け居心地良い環境作りの工夫をしている。 | 共用空間には季節ごとに装飾をしたり花を飾るなど、四季を感じてもらえるようにしている。利用者に気持ちよく過ごしてもらえるように、清潔であることも大切にしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食卓のイスをはじめ、ソファなど多様にイスを配置しており、好きなところで談笑が出来る空間づくりの工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 永年使い慣れた家具や身の回りの物を持ってきて頂いて、できるだけそれまでの環境と違和感無く過ごせるように工夫している。 | 入居時に、家族等に馴染みの品を持って来てもらうように話しており、利用者は写真や思い出の品、家具などを持って来てそれぞれが居心地よく過ごせるような部屋づくりをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人一人の出来る事を活かして安全に安心した環境で自立した生活が送れ「できる」事への生きがいを得られるように支援している。 | | |